

令和7年度
学校評価書(中間期)

愛南町立御莊中学校



愛南町立御荘中学校 学校評価公開シート その1

令和7年度中間期(7月)実施

【評価基準】 A:目標を達成 B:7割程度達成 C:5割程度達成 D:C判定以下

重点 目標	指標 No.	キー ワード	評価指標及び目標値 (期待される姿)	評価 (比較)	考察(◇)及び改善方策(◆)	評価アン ケート	4	3	2	1	%	4・3の割合																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
							0	50	90																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
I よりよく生きる力を育む指導の充実	①	いじめ・不登校防止	いじめ・不登校の防止や解消に向け、早期発見・早期解決できる集団づくりが実践されている。	中間期 A	◇毎月の学校生活アンケートや教育相談では、問題があった場合は迅速で組織的な対応を実践している。肯定的な意見は多いものの、5%の否定的な意見があるという事実を真摯に受け止めたい。生徒からの具体的な意見はないが、日常の学校生活の中で「いじめは決して許されない」という姿勢や空気をより明確に示す必要がある。	生徒2-4	78	18	4	1	95																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																

【学校運営協議会における意見・提案等】

◇いじめや不登校の防止のために組織的な対応ができています。生徒は、いじめがダメだとわかっているがいじめにつながる行為をしてしまうことがある。その視点を持って、今後の指導や対応をお願いしたい。

◆事案に対しては、チームでの迅速な対応を続ける。また、道徳科の授業等を活用し、自分の弱さの克服など心情面の育成を図っていききたい。

◇ほとんどの生徒が楽しく学校生活を送っており、「違いを認め合う」人間関係づくりを継続してほしい。

◆生徒が、学校が楽しいと感ずることができるよう普段のかかわりを大切にして、生徒同士、生徒と教職員の人間関係の向上に努めていきたい。



愛南町立御荘中学校 学校評価公開シート その2

令和7年度中間期(7月)実施

【評価基準】 A:目標を達成 B:8割程度達成 C:6割程度達成 D:C判定以下

重点 目標	指標 No.	キー ワード	評価指標及び目標値 (期待される姿)	評価 (比較)	考察(◇)及び改善方策(◆)	評価アン ケート	4	3	2	1	%	4・3の割合											
												05090											
Ⅱ 確かな学力の定着と向上	④	主体的 深い 学・対 話 的 で	主体的・対話的で深い学びを目指した、ねらいを明確にした分かる授業を実践している。	中間期	A	◇生徒、保護者、教職員のいずれも肯定的な回答が9割を超えているためA判定とした。教師が授業においてねらいを明確にし、分かりやすい授業を展開するとともに、話し合い活動などを積極的に取り入れてきた成果である。生徒もしっかりと考え、学力を向上させようとする姿勢が確実に身に付きつつある。	生徒2-1	57	40	3	0	97											
				保護者2-5			21	69	10	0	90												
				教職員2-1			42	58	0	0	100												
							〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・研究授業や各種研修への取組																
	⑤	主体 的 な 研 修 ・ 自 己 研 鑽	I C T活用を充実させ、授業内容と家庭学習を関連付け、個別最適な学習指導に努め、基礎的・基本的な事項の定着を図っている。	中間期	A	◇各教科でChromebookなどのICT機器を活用した授業が実施されている。ドリルパークやGoogle Classroomの機能を活用した小テストや情報共有は、基礎的・基本的な学習事項の定着に繋がっていると考えられる。学校で行った確認テストを家庭でも再度挑戦する生徒も見られるなど、家庭学習とも関連付けた学習が実現しつつあると言える。	生徒2-3	51	43	6	0	94											
				教職員2-2			47	53	0	0	100												
						〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・研究授業や各種研修への取組 ・各教科での基礎的・基本的な事項を図る取組																	
⑥	家庭 学 習 習 慣	主体的な家庭学習の習慣が身に付いている。	中間期	B	◇生徒の評価は、昨年度の中間期(75%)から上昇し、家庭学習の習慣が改善されていると思われる。しかし、保護者の肯定率は、昨年度とほとんど変わっていないことから、B評価とした。生徒自身は、自分の家庭学習に自信を持ちつつあるが、保護者は、大きな変容が見られないと感じていることが要因だと思われる。	生徒1-2	34	48	15	3	82												
			保護者1-3			22	54	19	5	76													
						〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・家庭学習時間調査 ・自主学習ノートの取組																	

【学校運営協議会における意見・提案等】

◇家庭学習の習慣が改善されていることは素晴らしい。予習の大切さなど、学ぶ意欲を高めていくとよいのではないかな。

◆予習は、主体的な学びそのものであると考える。各教科において、その基となる興味・関心の持たせ方を検討していく。

◇クロームブックの活用時間を確認することで、ある程度、家庭学習時間が把握できるのではないかな。

◆家庭学習用アプリであるドリルパークで、その使用時間が確認できる。しかし、アプリを開いていれば時間が進むため、実際の使用時間とのズレが生じていた実態があった。家庭における学習時間については、保護者の協力を得ながら把握することも検討したい。



愛南町立御荘中学校 学校評価公開シート その3

令和7年度中間期(7月)実施

【評価基準】 A:目標を達成 B:8割程度達成 C:6割程度達成 D:C判定以下

重点目標	指標No.	キーワード	評価指標及び目標値 (期待される姿)	評価 (比較)	考察(◇)及び改善方策(◆)	評価アンケート	4	3	2	1	%	4・3の割合		
												0	50	90
Ⅲ 心の教育の推進	⑦	中 気持 生ら のよ い言 挨拶	時と場に応じた気持ちのよい挨拶ができ、自分の意志で行動できる生徒が育っている。	中間期 A	◇教職員・生徒・保護者・地域のいずれも肯定率が8割を超えており、目標値に達しているため、A判定とした。生徒の4の解答率が高いのに対して、それ以外の回答は3の回答率が高く、「気持ちのよい挨拶」の捉え方に違いがあると思われる。	生徒1-7	66	31	2	1	97			
			【目標値】 教職員・生徒・保護者・地域の8割以上が肯定		◆学校以外の場面で、挨拶の実践について考える必要がある。生徒会執行部による挨拶運動も新たなアイデアを取り入れながら実践している。ブロック活動や部活動、全校集会等の場面で挨拶の意義について考え、中学生らしい「気持ちのよい挨拶」を実践できるようにしていく。	保護者1-2	37	51	11	2	87			
	⑧	人 権 尊 重 ・ 心 の 通 い 合 い	価値観の違いを認め合い、互いの人権を尊重した学校づくりがなされている。	中間期 A	◇生徒・保護者共に肯定率が8割を超えており、A判定とした。人権啓発室等主催の人権座談会、人権勉強会に多数の生徒が参加して学習を深めた。また、ハンセン病療養施設見学にも複数の生徒が積極的に参加した。校内いじめ対策委員会や学校生活アンケート、ジブンミカタプログラム等からの情報をもとに、生徒の人権意識や人権感覚を高める機会を持っている結果であると考え。	生徒1-11	53	42	4	1	95			
			【目標値】 生徒・保護者の8割以上が肯定		◆いじめや差別のない学校生活の実現に向けて、道徳教育や人権学習実施の機会を今後も充実させる。学校行事後のメッセージ交換などの活動を通して、思いやりの心の育成を図る。11月末に開催予定である校別人権・同和教育懇談会への取組を通して、周囲の人のためになる言動について理解し、正しく行動ができる実践力の向上を目指す。	保護者2-8	33	57	10	0	90			
	⑨	道 徳 教 育 の 充 実	対話を重視した道徳科の授業を通して、人間としての生き方についての考えを深めるとともに、道徳的な態度や実践意欲が育てられている。	中間期 A	◇生徒・教職員ともに肯定率が9割を超えており、A判定とした。特に、教職員の評価が昨年度より上がっており、取組を肯定的に捉えていると考えられる。今年度は、4月始めに全校で道徳ガイダンスを行い、道徳の授業の方向性について共通理解を図った。また、ローテーション道徳を実施することで、協働的な活動が増えていることも理由の一つと考えられる。	生徒2-6	54	39	5	2	93			
			【目標値】 教職員・生徒の8割以上が肯定		◆今後も、道徳科の授業で、問題解決的な学習や思考ツールを活用する多様な方法を取り入れた指導を充実させていくことで、多面的・多角的な見方や考え方を共有しながら、考え・議論する道徳科の授業を進めていく。また、地域資料開発、ローテーション道徳の継続、校内研修での道徳教材の啓発等を行い、魅力的な授業を展開する。	教職員6-1	53	47	0	0	100			

【学校運営協議会における意見・提案等】

◇いつも元気な挨拶をしてくれ、とても気持ちがいい。今後も指導をお願いしたい。

◆生徒会執行部を中心に、様々な工夫をしてよりよい挨拶を目指している。生徒だけでなく教職員も含めて、更なる活性化に取り組む。

◇SNS上での問題が増えてきていると感じる。道徳でSNSの指導を行うことはできないか。

◆SNSでの問題は、生徒指導主事を中心に組織的に指導し、関係機関とも連携して対応している。道徳科においても、SNSの課題を扱った内容があり、授業を通して相手の立場になって考えることの大切さなどを指導しており、今後もそれらの取組を継続していく。



【評価基準】 A:目標を達成 B:8割程度達成 C:6割程度達成 D:C判定以下

重点 目標	指標 No.	キー ワード	評価指標及び目標値 (期待される姿)	評価 (比較)	考察(◇)及び改善方策(◆)	評価アン ケート	4	3	2	1	%	4・3の割合									
												05090									
Ⅳ 健やかな体の 育成と安全教育・ 防災教育の推進	⑩	体力の 向上	授業や部活動を通して、運動の 習慣化と体力向上が図られて いる。	中間期 A	◇生徒・保護者・教職員とも8割以上が肯定的な意見の為、A判定とした。保健 体育科の授業では、基礎体力作りとしてランニングや補強運動を継続して行っ ている。年度当初は、腕立て伏せや腹筋等がうまくできなかった生徒も継続する ことで少しずつではあるができるようになってきた。それに伴って、基礎体力作り に真剣に取り組む生徒も多くなってきたように感じる。また、新体力テストでは、 自己の記録を伸ばそうと意欲的に取り組む生徒が多く見られた。	生徒1-6	59	24	15	1	84										
			【目標値】 教職員・生徒・保護者の8割以上が肯定		◆新体力テストの結果より、今年度も柔軟性や巧緻性に課題があることが分 かった。今後も、これまでの取組を見直しながら、継続していくことが必要であ る。また、実技の授業以外でも自分の体力についてしっかりと考えていけるよ う、保健分野の授業や各学校行事とも関連付けながら、生徒自身が体力の向 上に主体的に取り組むことができるように配慮していきたい。	保護者2-9	28	66	7	0	93										
						教職員7-1	63	37	0	0	100										
	⑪	安全・安心な 学校づくり	持続可能な防災教育の充実を 図り、生徒自ら安全確保のため に主体的に行動する態度を育 成している。	中間期 A	◇生徒・保護者・教職員とも肯定的な意見が9割を超えている。地震や津波に対 する危機感や日頃の防災学習・避難訓練の成果が出ていると思う。教職員は1 00%になっていることから全体の防災意識の高さがうかがえる。ただし、生 徒・教職員に対して保護者の評価に4より3が多いことが気になる。校内での取 組が十分伝わっていない可能性がある。	生徒2-6	64	34	1	0	99										
			【目標値】 生徒・教職員の8割以上が肯定		◆防災小説や総合的な学習の時間の防災に関する取組を計画的に実施すると ともに、自助・共助の意識を育てていく。また、その活動を生徒から保護者に伝 えたり、学校・学級通信やホームページなどで保護者に知らせたりして保護者へ 啓発していく。	保護者2-1	36	63	1	0	99										
						教職員7-2	68	32	0	0	100										
⑫	基本的生活 習慣の定着	生徒自身による「早寝・早起 き・朝ごはん」等、基本的な 生活習慣が定着している。	中間期 A	◇生徒の8割以上が肯定的な意見の為、A判定とした。肯定的な意見が多い半 面、評価が1の生徒も4%おり、朝食欠食、長時間のメディア使用による生活習 慣の乱れがうかがえる。	生徒1-8	43	40	14	4	82											
		【目標値】 生徒の8割以上が肯定		◆健康観察、心と体の健康チェックの結果から必要に応じて個別指導を実施す る。また、生活リズムと健康について、保健だよりや生徒保健委員会による啓発 活動、保護者への啓発により、基本的生活習慣の定着を目指す。	〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・健康観察(毎日) ・心と体の健康チェックの結果(月1回)																

【学校運営協議会における意見・提案等】

◇HPや学校通信で、いろいろな防災学習に取り組んでいることが伝わり、今後も続けていただきたい。地震は、登下校の時間でも起こる可能性がある。そのため、登下校での避難訓練も検討していただきたい。

◆本校は、校区が広範囲であること、徒歩、自転車、スクールバスと通学方法が多様であることなどから登下校中の避難訓練は実施できていないのが現状である。しかしながら、地震はどのタイミングで発生するか分からないため、通学路の危険箇所の確認や避難場所の確認など、まずはシミュレーションすることで危険回避能力の向上を図る。



愛南町立御荘中学校 学校評価公開シート その5

令和7年度中間期(7月)実施

【評価基準】 A:目標を達成 B:8割程度達成 C:6割程度達成 D:C判定以下

重点目標	指標No.	キーワード	評価指標及び目標値 (期待される姿)	評定 (比較)	考察(◇)及び改善方策(◆)	評価アンケート	4	3	2	1	%	4・3の割合										
												0	50								90	
V 家庭や地域とともにある学校づくり	⑬	地域とつながる教育	「人」や「仕事」など、地域とのつながりを生かした教育活動に工夫して取り組んでいる。	中間期 A	◇いずれも9割以上が肯定的回答であるため、評定をAとした。3年生は、町内の事業所と連携を図りながら、1人1(または2)事業所での職場体験学習を実施することができた。生徒や各事業所のアンケート結果からも、地域とのつながりの大切さを実感できる活動となった。また、2年生は、社会福祉協議会と連携して福祉学習に取り組んだ。福祉施設の方々の講話を通して、人との関わりの中で大切なことや自分たちにできる福祉について考えることができた。	生徒1-14	43	38	18	1	81											
			【目標値】 教職員・地域の8割以上が肯定		◆2学期に予定している「造形の日」や2年生の福祉体験学習、1年生の地域学習(愛南町)においても、講師や各事業所と密に連携を図ることで、より効果的な教育活動の実施を目指す。	保護者2-7	32	61	6	0	94											
						教職員4-2	53	47	0	0	100											
						地域2-2	33	64	2	0	98											
						〈自己評価アンケート以外 の 評価材料〉 ・体験学習後の生徒の感想等																
	⑭	特別支援教育の充実	特別支援教育の充実が図られ、関係機関との連携を図った教育的ニーズ対応した教育が実践されている。	中間期 A	◇保護者・教職員の肯定率が8割を超えており、A評定とした。教職員、支援員が連携し、特別支援学級の生徒を中心に、きめ細やかに対応し適切な環境づくりに努めた。障がいの特性に関する校内でのミニ研修会や巡回通級指導教室担当教諭との連携を密にするなどして、障がいに対する理解を深めることができた。また、学びプラン(個別の指導計画)作成においては、保護者も質問に回答することにより詳しい実態把握につながった。	保護者2-7	33	57	10	0	90											
			【目標値】 保護者・教職員の8割以上が肯定		◆さらに、配慮が必要な生徒に対しての共通理解を図り、適宜、個別の指導計画の検討を行うなどして、個に応じた適切な支援ができるようにしていく。	教職員5-1	68	21	11	0	89											
						〈自己評価アンケート以外 の 評価材料〉																
	⑮	開かれた学校づくり	保護者や地域の意見・願いを幅広く聞くとともに、学校の取組や生徒の様子を積極的に公開するなどして、学校運営協議会の協力の下、家庭・地域と連携した開かれた学校づくりに努めている。	中間期 A	◇保護者・地域の9割以上が肯定的であるため、評定をAとした。学校や学級、各担当者から各種通信が定期的に発行されていることや、HPの更新が毎日行われていること、クロームブックによる全校生徒への連絡・調査・アンケート等で双方向のコミュニケーションが取れていることなどが、肯定的な回答につながっていると思われる。	保護者2-1	27	65	8	0	92											
			【目標値】 ホームページ、各種たよりの保護者の閲覧率が8割以上		◆2学期以降も、HPの更新を継続し、各種通信を定期的に発行することで、授業や集会、学校行事、生徒会活動、部活動など、教育活動全般の様子を幅広く発信していく。また、各種通信が生徒を通じて保護者の手に確実に渡るよう声掛けをしながら、更に家庭や地域との連携を図っていく。	教職員8-2	68	32	0	0	100											
						地域2-3	50	50	0	0	100											
						〈自己評価アンケート以外 の 評価材料〉 ・地域との連携の状況																

【学校運営協議会における意見・提案等】

◇職場体験学習や福祉学習など、地域の方々の協力の下、たくさんの活動ができていることが生徒にとってよい効果を生んでいるのではないかな。

◆生徒は、教職員以外の方々と交流し、触れ合い、教えていただくことを通して、地域や社会とつながっていることを感じている。何より、質問や感想発表など、自分の考えを表現できる、しようとする生徒、心豊かな生徒が育っている。地域の方々には、生徒の育成のために今後も御支援・御協力をお願いしたい。